教育課程指定研究
研究発表

徳島県立名西高等学校
髙丸公相

名西高校について

徳島県内唯一の芸術科（音楽・美術・書道）

「文化芸術リーディングハイスクール」指定校

芸術科は音楽コース・美術コース・書道コースがある。

3学年あわせて普通科 8 クラス　芸術科 6 クラス

美術コースは1学年20人である。

授業について

1年生

油絵基礎・日本画基礎・デザイン基礎・彫刻基礎・素描・構成

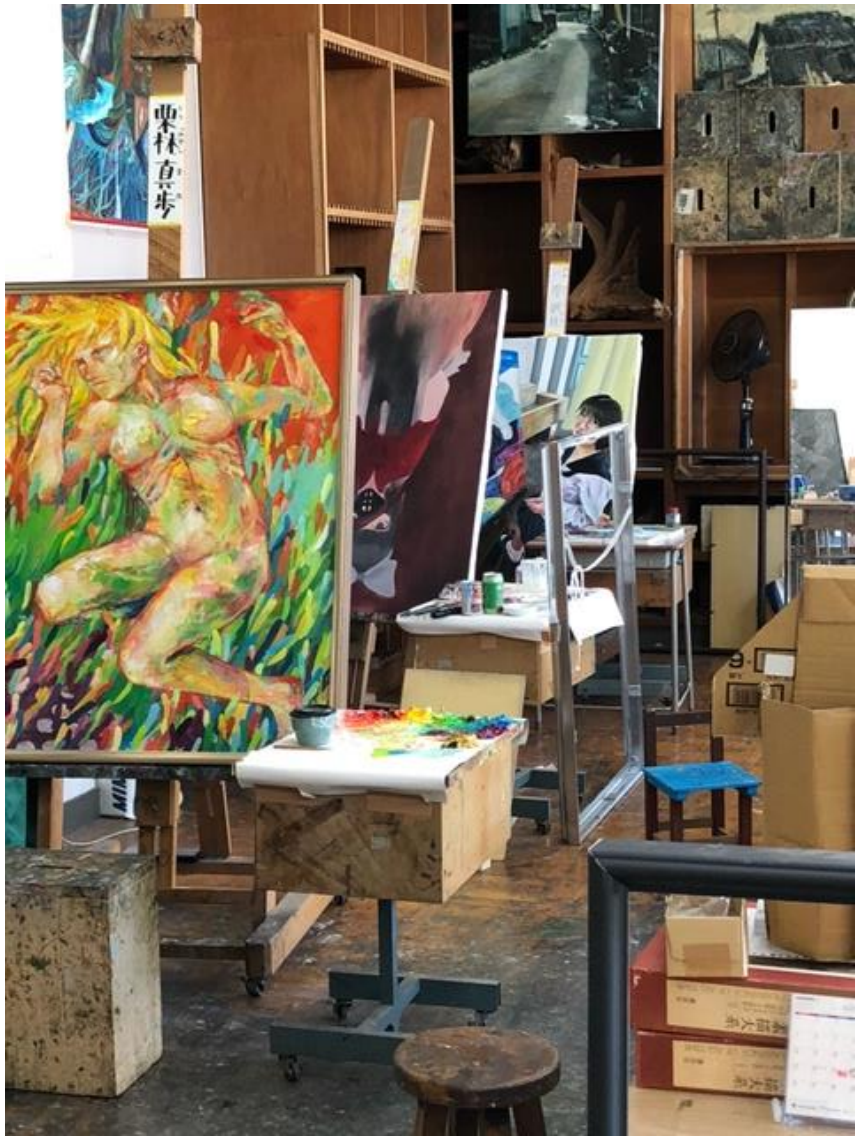
2年生

専攻（油絵・日本画・彫刻・デザイン）・素描・構成・西洋美術史

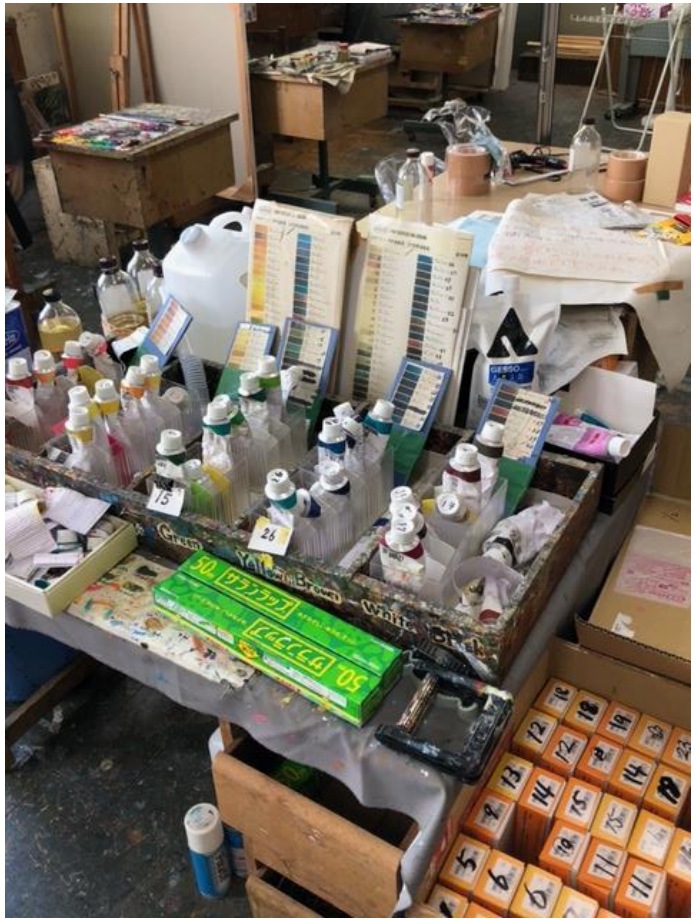
3年生

専攻（油絵・日本画・彫刻・デザイン）・素描・構成・日本美術史

徳島県立名西高等学校　芸術科　美術コース



油絵教室



徳島県立名西高等学校　芸術科　美術コース

油絵教室

徳島県立名西高等学校　芸術科　美術コース

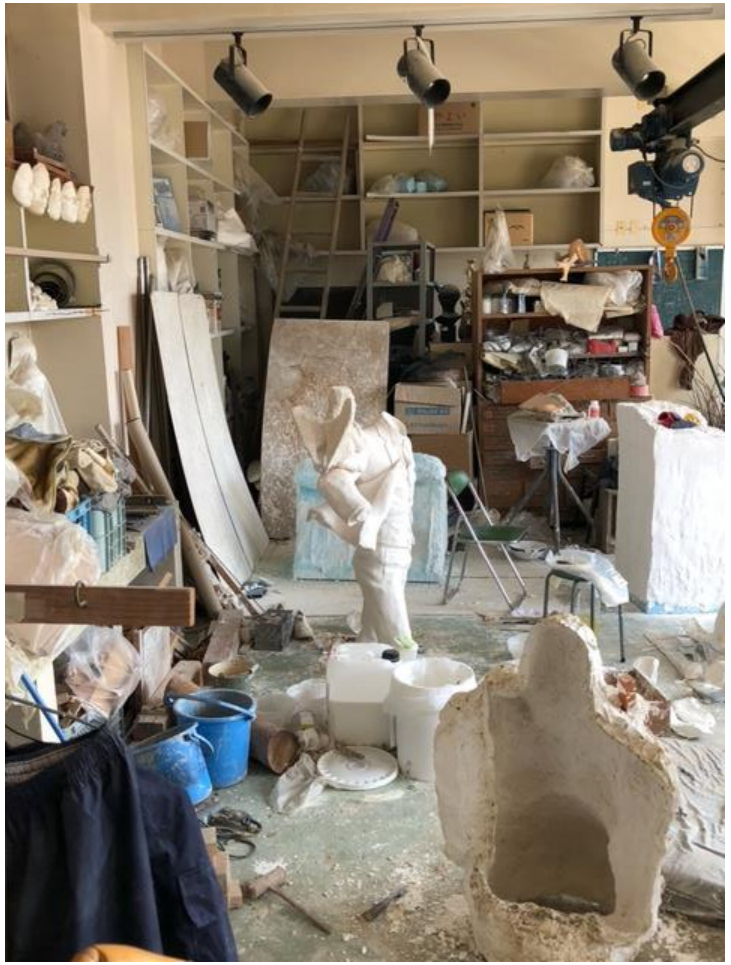
日本画教室

徳島県立名西高等学校　芸術科　美術コース

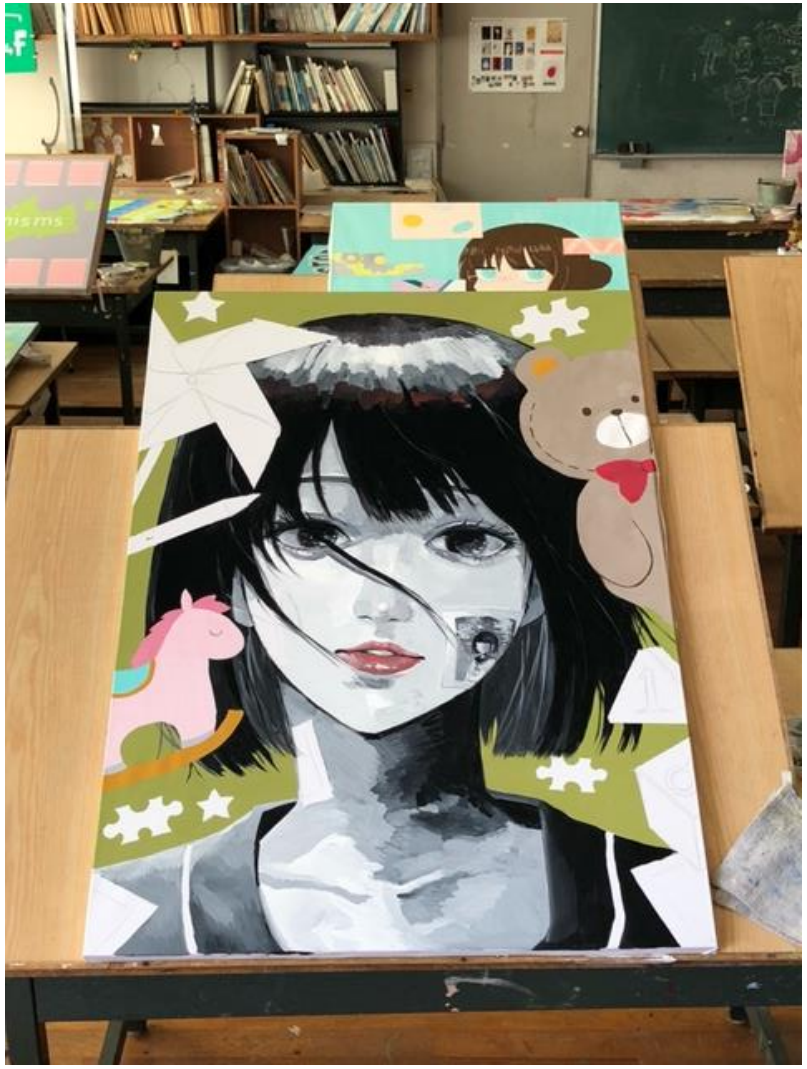
日本画教室

徳島県立名西高等学校　芸術科　美術コース

彫刻室



徳島県立名西高等学校　芸術科　美術コース



デザイン室

徳島県立名西高等学校　芸術科　美術コース

デザイン室

研究主題の設定理由

- 生徒は作品の制作に熱心に取り組むことができるが、表現の活動において発想や構想の段階で、何を表すか、どう表すかについて考えが深まっているとは言えない
- 鑑賞の活動を通して育成される見方や感じ方を表現に活かせていない

→・表現と鑑賞の活動を通して造形的な見方・考え方を働かせる
・鑑賞の活動において言語活動を充実させ、表現の活動における発想や構想に関する資質・能力を育成する

研究主題
「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指し、表現及び鑑賞において育成する資質・能力と学習内容の関係を明確にした、指導方法と評価方法についての研究

研究内容及び具体的な研究活動

研究内容

１　美術科専門科目の連携を図った科目横断的な授業の実践

　素描とその他の専門科目で、同一のモチーフやテーマを設定し、表現と鑑賞の活動に取り組む。

研究内容

２．主体的な鑑賞活動の研究

題材の内容やまとまりの中で、どのような鑑賞活動を取り入れれば、表現と鑑賞の効果的な関連が図れるかの研究に取り組む。

表現及び鑑賞の活動に取り入れる言語活動によって、造形的な視点を通して自ら感じたことを言語化し伝え、他者の個性や魅力を見付け、鑑賞に関する資質・能力の育成を重視した題材の構想と、指導方法と評価方法の工夫改善に取り組む。

具体的な研究活動

2020年4月
新型コロナウィルス感染拡大防止のため臨時休校となった。
休校中は素描を中心とした自宅課題に取り組み基礎力を養った。

４月～５月　自宅課題の内容

・素描／タマネギ（Hの鉛筆で線描のみ）
・素描／タマネギ（２Bの鉛筆で塗りのみ）
・素描／タマネギ（通常の素描）
・素描／木の立方体
・素描／ポカリスエットの缶
・素描／木の立方体とタマネギ
・色相環（色紙使用）
・色彩課題／明度彩度トーン（色紙使用）

自宅課題　生徒作品

Hの鉛筆のみ
線描で形を追う

２Ｂの鉛筆のみ
塗りで
明暗や色を追う

塗りと線描を
組み合わせて素描

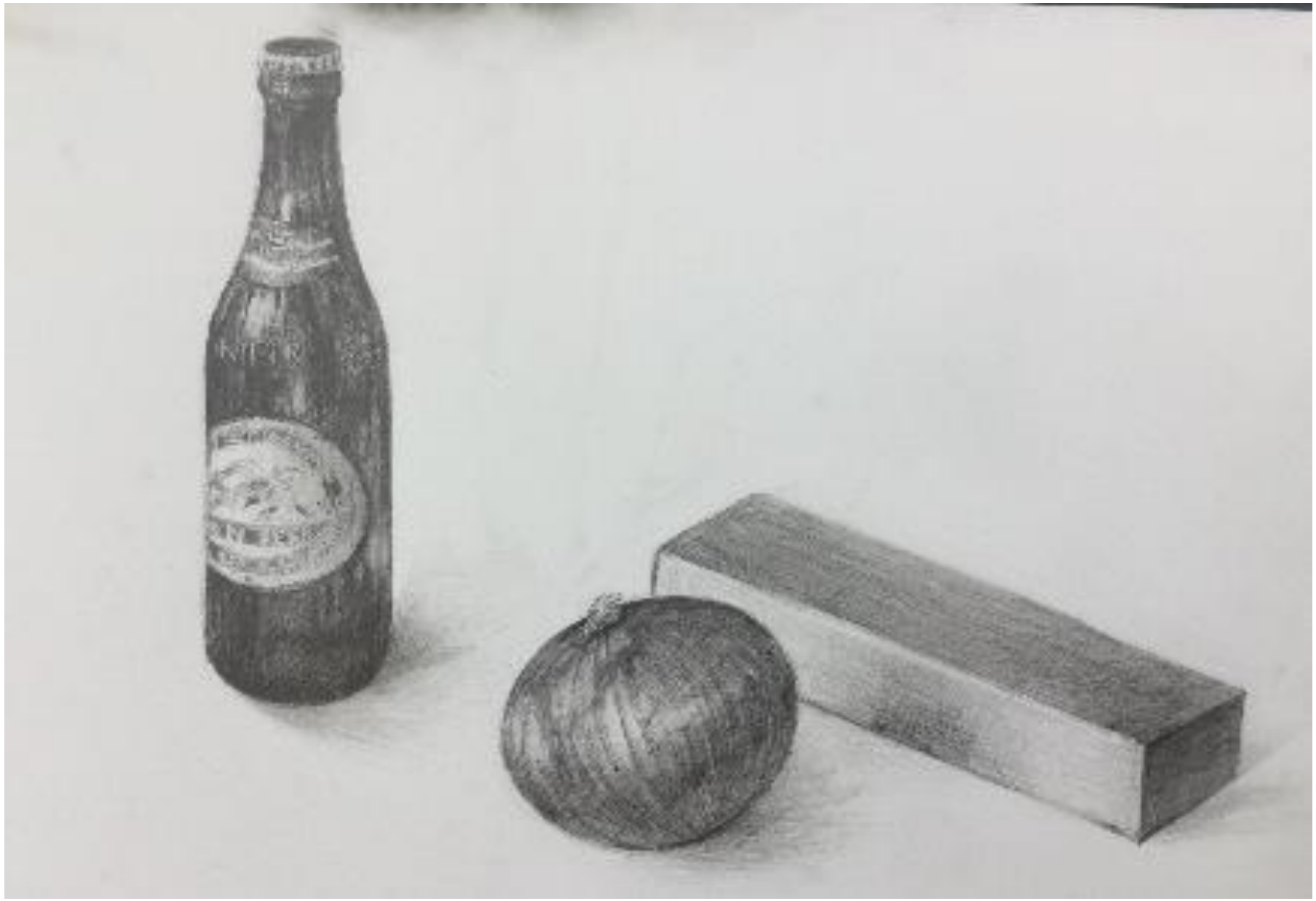
線描　　/　　塗り　　/　　組み合わせる

描き方を限定することで捉え方を学ぶこと

1年生1学期
共通モチーフ　「タマネギ」

１学期　共通モチーフ　「たまねぎ」　課題内容

科目	課題	キーワード
素描	タマネギ、ビール小瓶、紙箱	工業製品と自然物の違いを感じるものの位置関係を観察する
油絵基礎	静物油彩（グリザイユ）	形体/立体感/空間感を意識して観察し油絵の具で描く
日本画基礎	着彩（透明水彩）	固有色/陰の中の映り込みなど色を意識して観察し、透明水彩絵の具で描く
デザイン基礎	色面分割（アクリルガッシュ）	面を意識して観察し、アクリルガッシュを用いて明度で色面を描く
彫刻基礎	塑像（水粘土）	あらゆる角度から見比べ、立体的に形体を理解し、水粘土でつくる



静物素描
鉛筆／B3
位置関係や空間感を
意識して観察する

日本画基礎
固有色/陰の中の映り込み
など色を意識して観察し、
透明水彩絵の具で描く

油絵基礎
静物油画（グリザイユ）
形体/立体感/空間感を意識して
観察し油絵の具で描く

デザイン基礎
色面分割
面を意識して観察し、
アクリルガッシュを
用いて明度差のある
色面を描く

彫刻基礎
塑像（水粘土）
あらゆる角度から見比べ、立体的に形体を理解し、水粘土でつくる

塑像の制作過程で意識した面の変わり目を

色面分割や水彩の表現に活用したり、

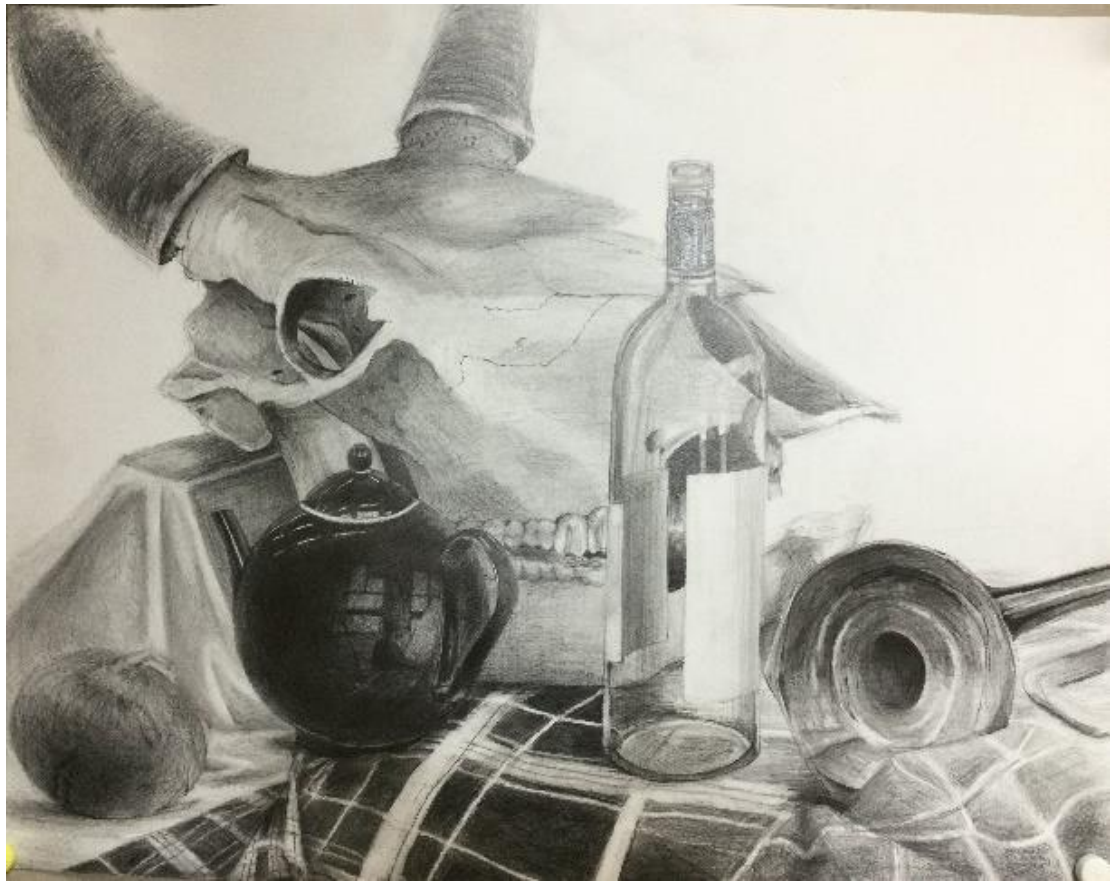
素描で培った形への食いつきを油画や塑像で発揮したりと、

科目間の連携の成果が生徒作品に現れていた。

1年生2学期
共通モチーフ（油絵・素描）
牛骨のある静物

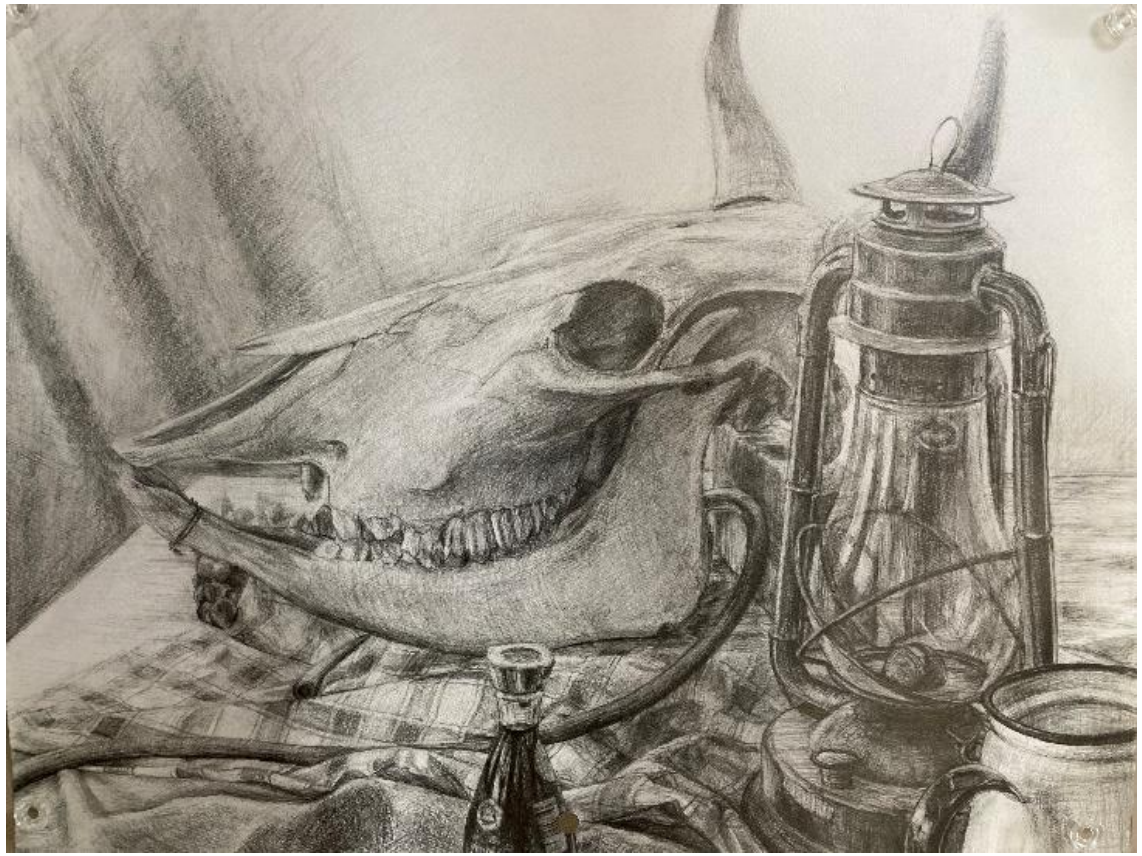
牛骨を中心とした大型の静物モチーフを組み、長期間（９～１１月）油絵と素描を行った。

油絵と素描、それぞれの造形的な視点を意識し、それを関連づける事を目標とした。



木炭紙大画用紙／鉛筆

F30／油彩



木炭紙大画用紙／鉛筆

F30／油彩

例年、油絵の初期は、モチーフの固有色に振り回されがちだったが、素描と平行して制作することで、立体感や空間感が意識され、モチーフの置かれた状況を感じさせる作品が多く見られた。また、素描では、鉛筆の色幅や表現が豊かになり、自分の作品として素描する姿勢がうかがえた。

1年生3学期
共通テーマ「顔・貌」

課題内容

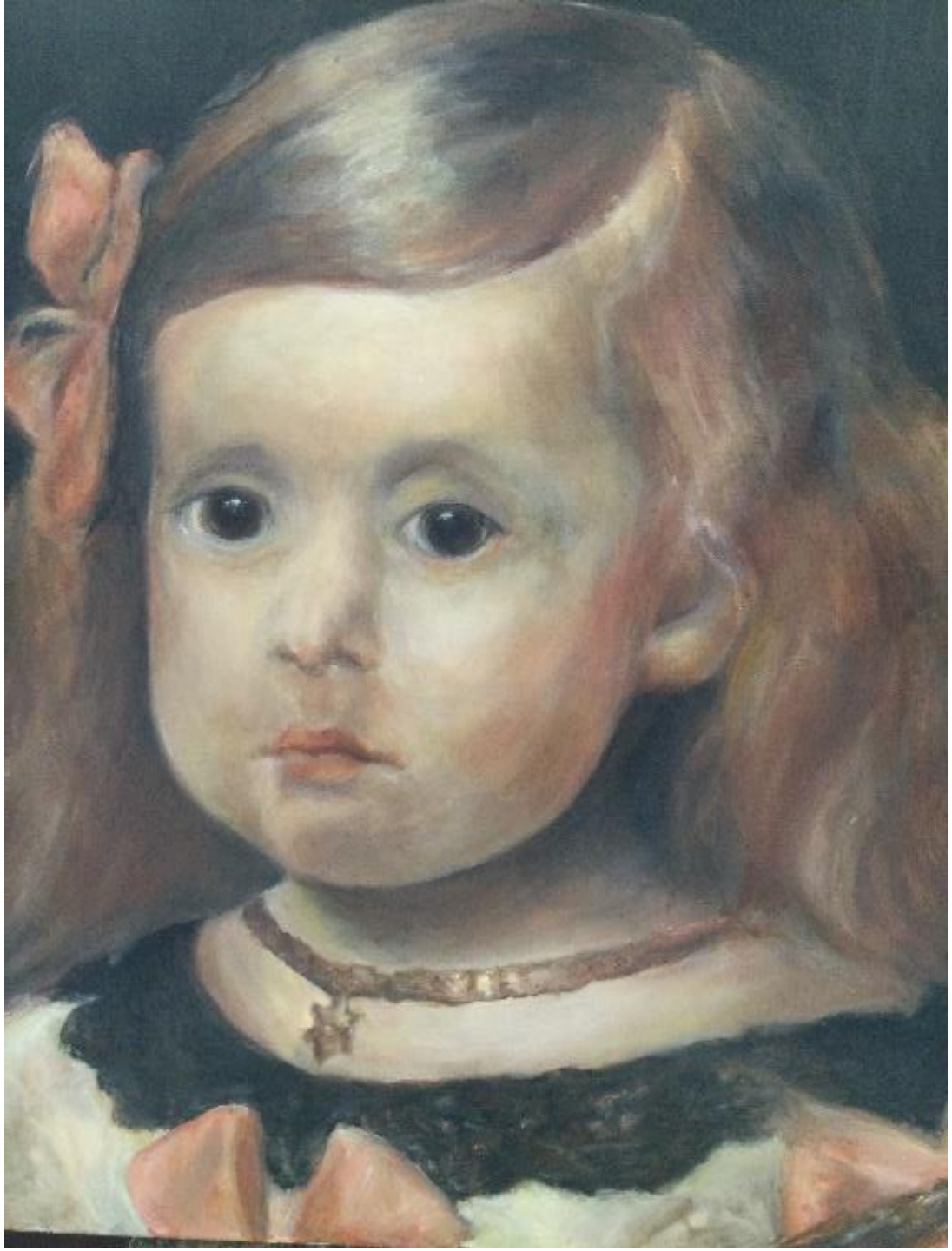
・素描　　自画像（鉛筆デッサン）、
　　石膏像ラボルト（木炭デッサン）
・油絵基礎　名画の模写（肖像画・油彩F10）
・彫刻基礎　自刻像（マスク・塑像 水粘土）

↓

・素描　　自画像（鉛筆デッサン）※2学年4月に実施

人の顔を描く時は、慣れや概念が邪魔をして、なかなか対象に近づけないことがある。
目鼻口髪と言った意識ではなく、面や量といった造形的視点で対象をとらえることを目的とした。

木炭／木炭紙
頭部の骨格を意識し、面で捉える

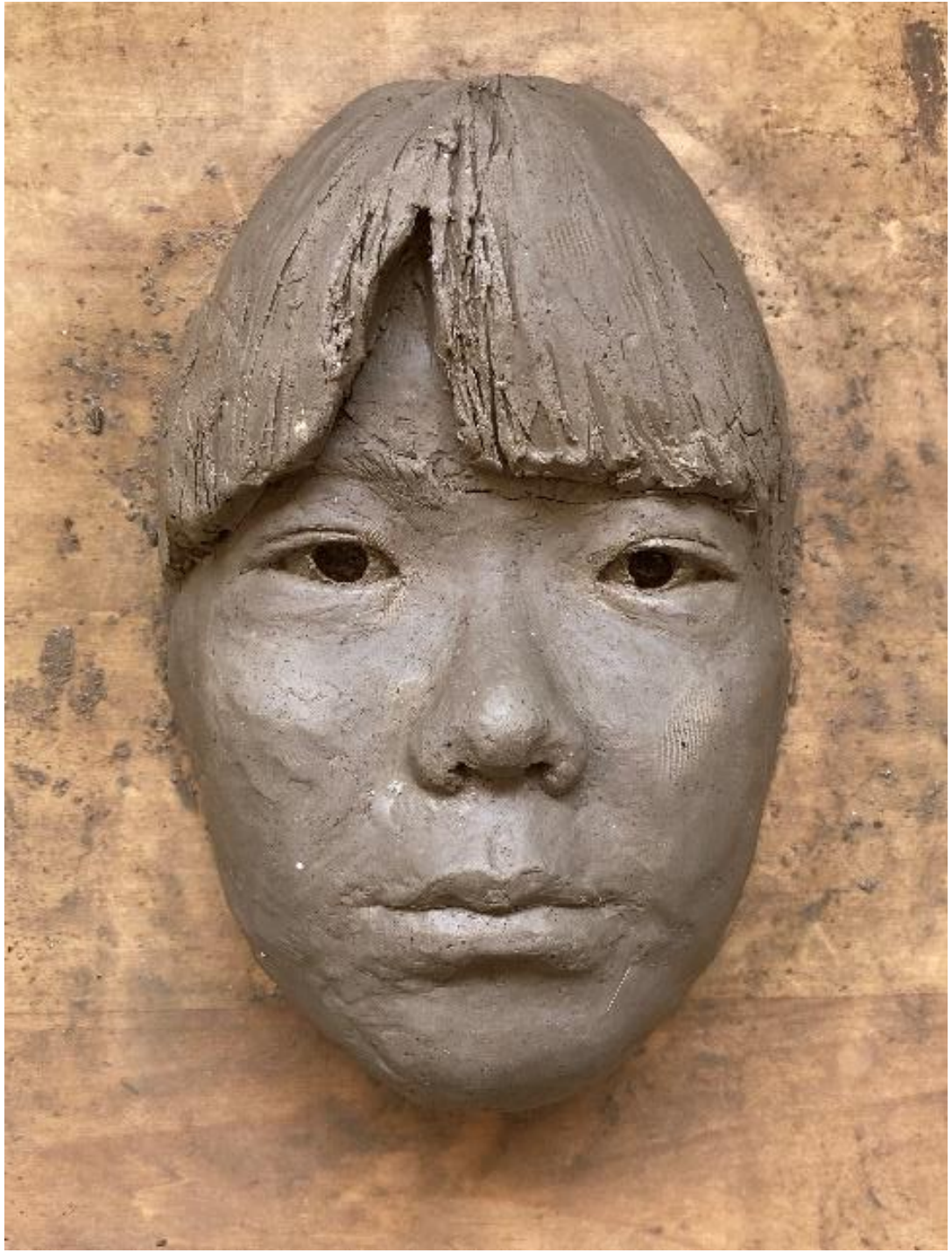


油彩／F10
模写をすることで
作者の見方を学ぶ

自画像
1月／4月

油彩／F10

木炭／木炭紙



自刻像／水粘土

自画像
1月／4月

立体的な描写や頭部のとらえ方に成長が見られた。
１月の自画像は顔と髪の毛という意識で描かれているが、
４月の自画像は立体的な意識の元で、頭部全体を面でとらえようとしている。

2年生1学期
共通テーマ「切り取って画面をつくる」

課題内容

・素描　大型静物モチーフ
　　（流木・木箱・紙テープ・塗料缶）
　鉛筆/木炭選択　木炭紙大

・各専攻の画材で風景を描く

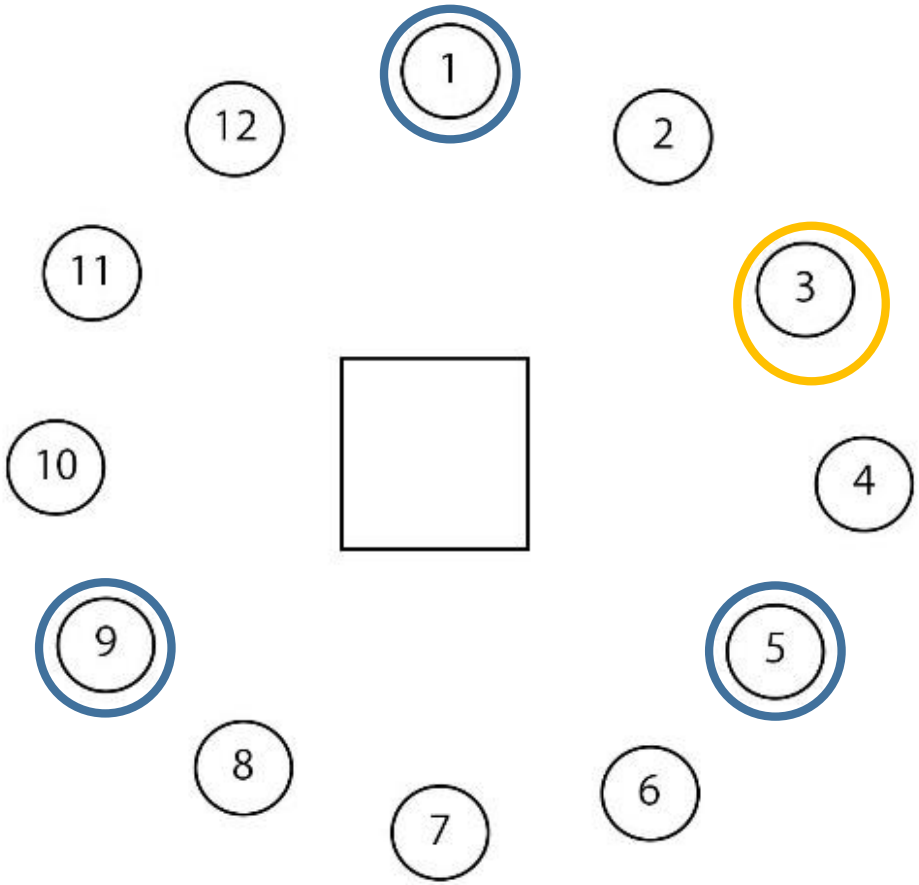
- 素描　大型静物モチーフ

大型モチーフから、自分の見せ場にする場所を探す。

そして、どう切り取れば見せ場の魅力が伝わる構図になるか考える。

構想段階でのワークショップ

エスキースで
他の人の考えを取り入れ
思考力、判断力、表現力等を深めて
いく。



ワークショップ

1．モチーフを囲んでランダムに着席し、その場所から15分間エスキースをする。

2．時計回りに席を4つずれて15分間エスキース。

3．もう一度繰り返す。
（計3ヶ所でエスキースすることになる）

4．くじ引きをして、自分の場所を決める。
15分間エスキースをする。

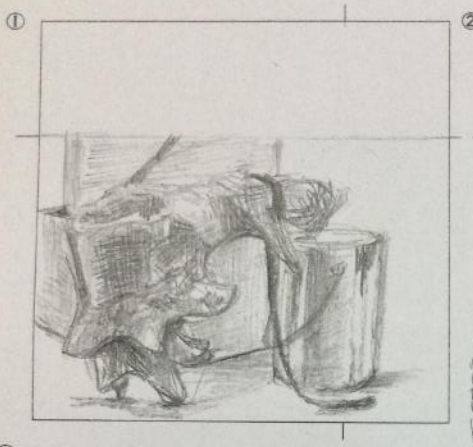
5．１～３で描いたエスキースを、
現在その場所で描いている人に渡す。

6．自分の場所で、他の人がどんな風に見せ場を決め、切り取っているかを参考にし、
エスキースを深めていく。

7．ワークシートに、エスキースの変遷を記録する。

流木の素描・構想ノート　①～④にエスキースの略図を描いてください。
友達のエスキースで参考にしたものも②か③に。④は本番の構図を描くこと。
メモはそれぞれの絵の見せ場や，問題点、工夫した点など書いてください。

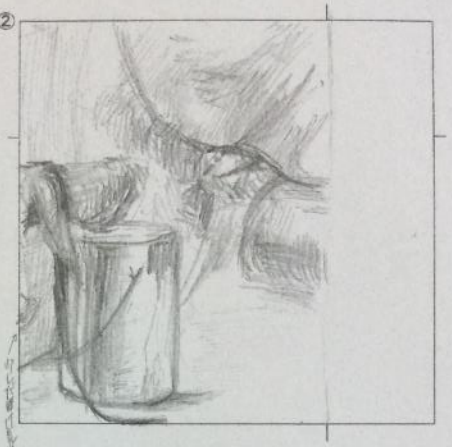
①



①のメモ

気[illegible]を入れたかった
奥行きがないかも

②



②のメモ

流木を大幅に削って
リボンや気を強調できるような構図にした
奥の方にあるようイメージ奥行きをだした

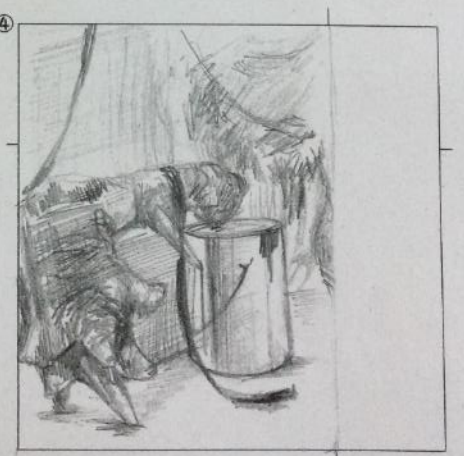
③

③のメモ（他の人のエスキース）

気と流木が大きくかかれているところ
（細部までイメージ[illegible]がなく見えた）

奥行きがあまりない

④



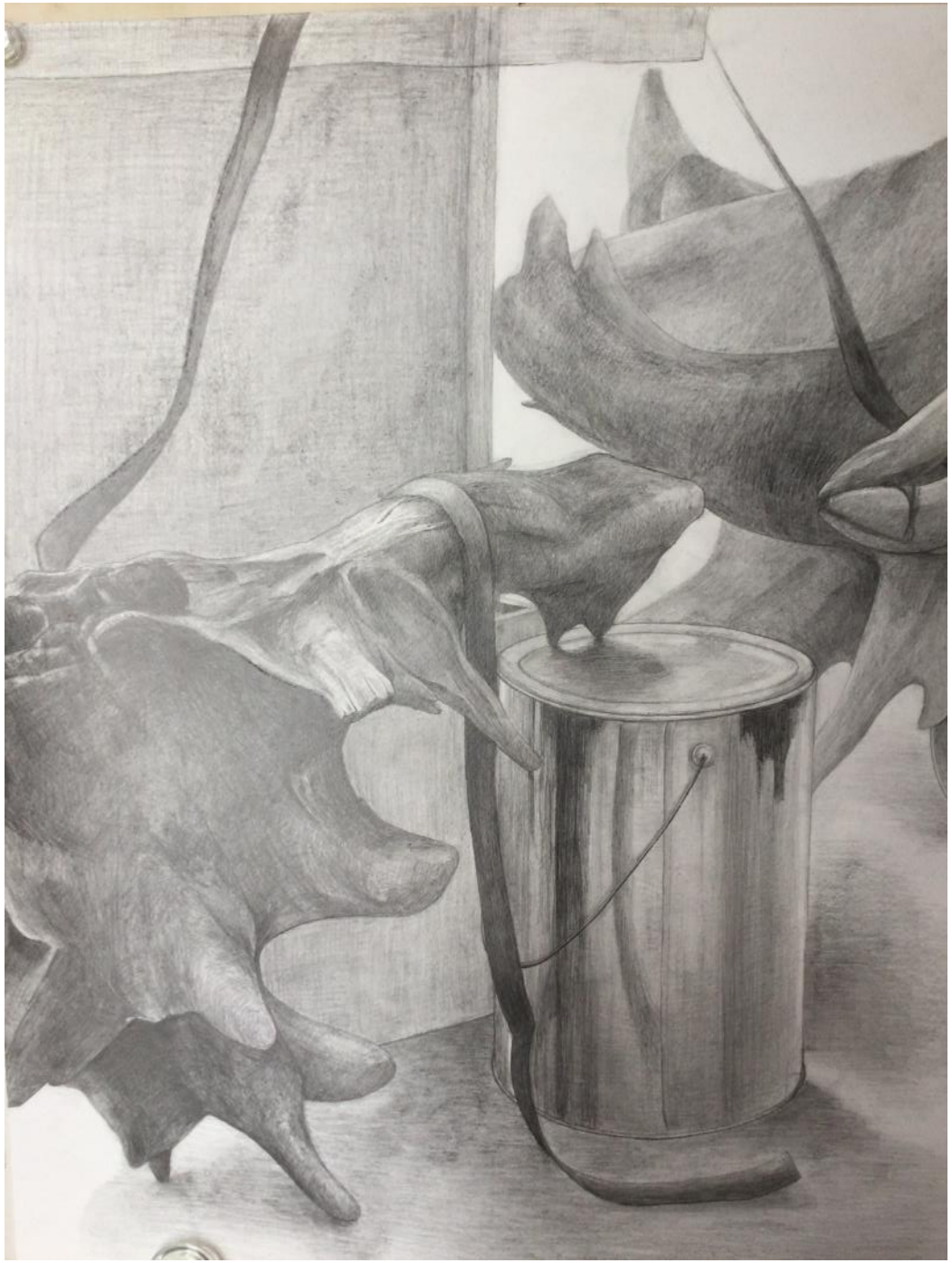
④のメモ

中レンズにより奥行きがでるように.
あと流木を少しきれるぐらいで入れた
リボンがちょうどまん中（真ん中）あたりに
入るのもいい感じ

④

④のメモ

中レンズにより奥行きがでるように.
あと流木を少しきれるぐらいで入れた
リボンがちょうどまん中（真ん中）あたりに
入るのもいい感じ



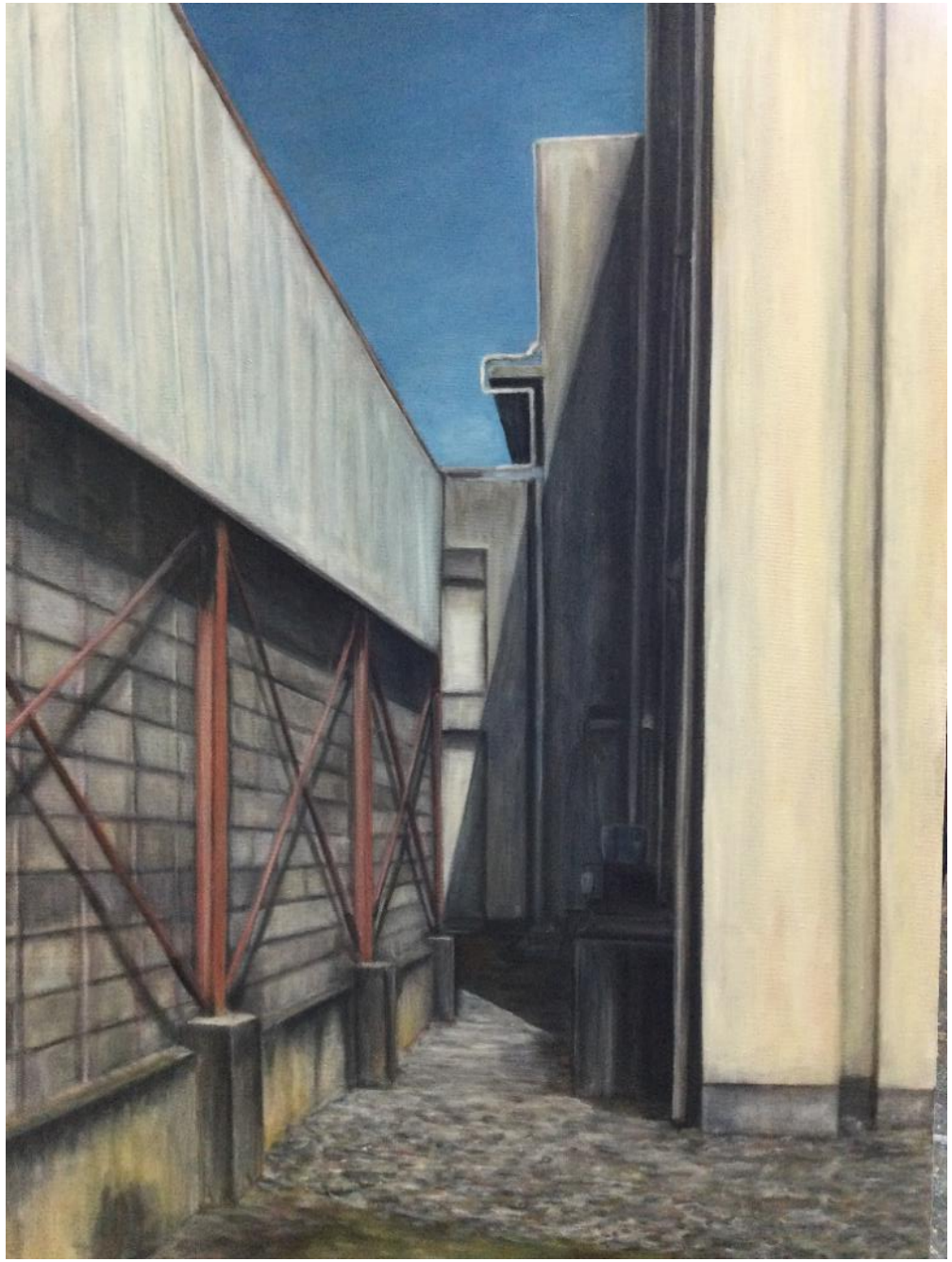
物の重なりを利用して
奥行きを表現している

床の影と映り込み
という
明快な主題

画面左側を大胆にあけて
空気感を意識する

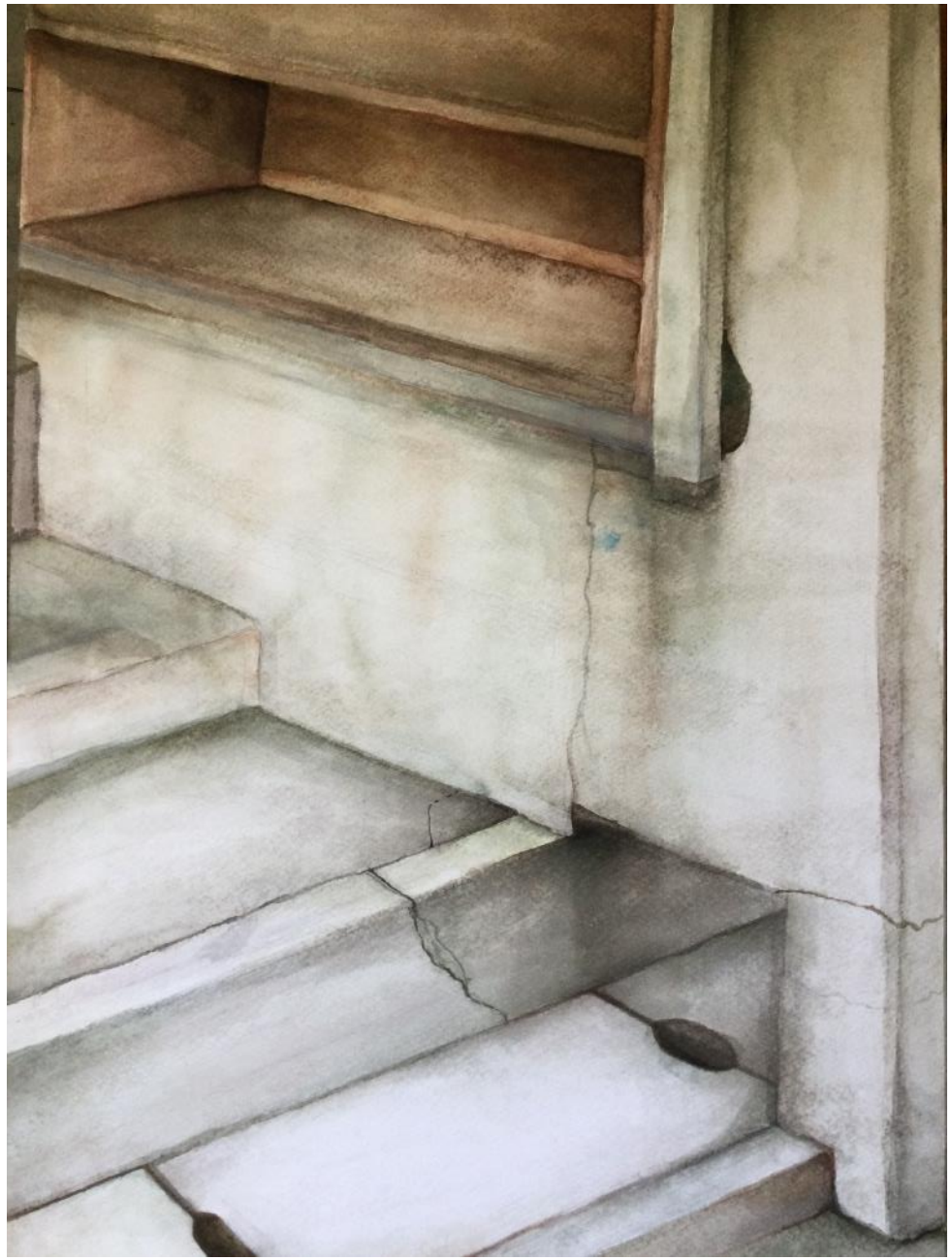
物の重なりを利用して奥行きを表現している作品。
床の影と映り込みという主題が明快な構図。
画面左側を大胆にあけた構図など、
様々な挑戦が感じられる作品があった。

風景課題



油彩／F10

油彩／F10



透明水彩／B3

アクリルガッシュ／B3

風景課題では、自分の描きたい場所が見つかるまで、学校の中を歩き回ってスケッチした成果が作品に現れていた。

ものや空間などの着目したポイントが明確であったり、パースが強調される視点など構成の工夫が見られたりなど、主題が明快な作品が多く見られた。

2学期　素描　手の構成デッサン「食」

- 「主題が伝わる画面を構成する」ことで思考力、判断力、表現力等を総合的に育成することを目指す。
- 構想・制作・講評を通して、感じたことや考えたことを共有する。

片手のデッサン　手の構造や形体を
観察する

両手のデッサン
空間を意識した構成について考える

構成デッサン「食」
自由度の高い課題にすることで、
作品として主体的に取り組み、
主題を持つ。
そしてそれが伝わるよう構成し、
描写する。

手の構成デッサン「食」
構想段階でのワークショップ

食に関するキーワード探し

【単語】

【オノマトペ】

それぞれ考えてくる

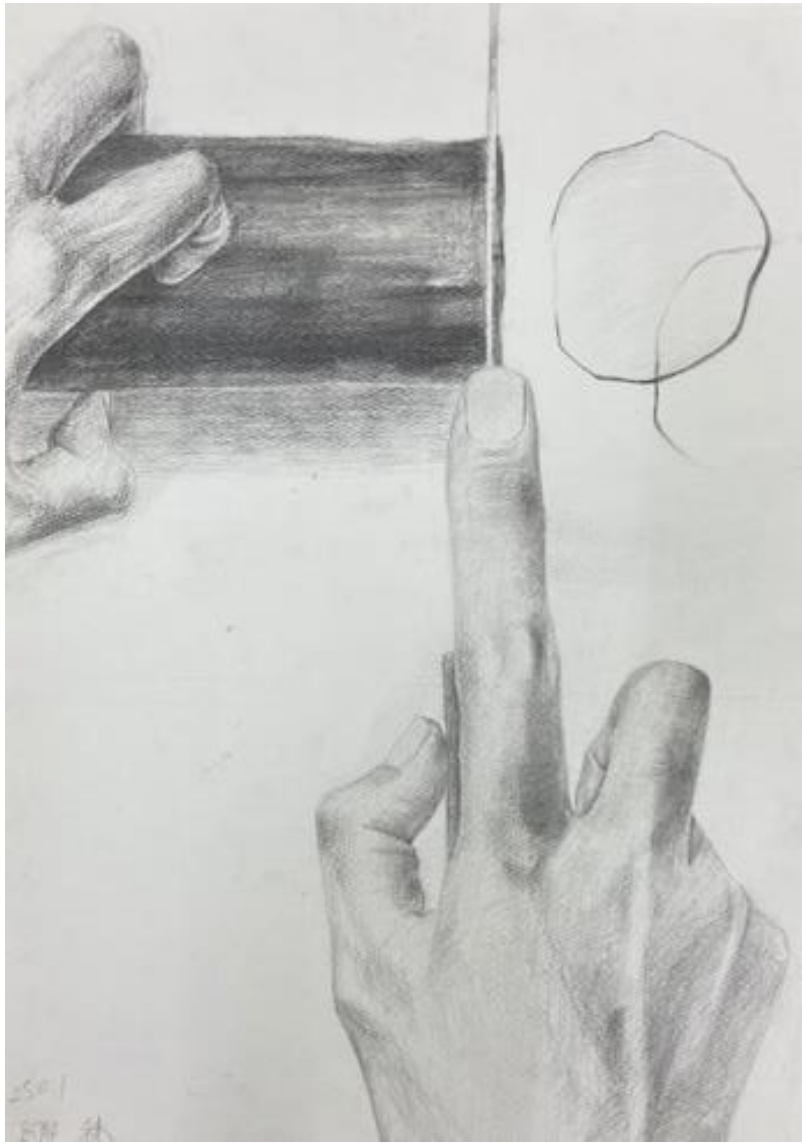
↓

発表・共有

「単語」
食器 、切る 、肉、水、果物、
いただきます（あいさつ）、野菜、おにぎり、
盛り付け、 和食、 ぶっ刺す、 洋食、 お箸、 麺、
プリン、 揚げる、 スプーン、 フォーク、
割る、 裂く、 煮る、 咀嚼、 シズル感

「オノマトペ」
シャキシャキ、　モッチモチ、　パリパリ、
グチャグチャ、　ザクザク、　ピリピリ、　グツグツ、
コトコト、
ツルツル、　グサリ、　モグモグ、　パサパサ、　プル
プル、
フワフワ、　ゴクゴク、　ニチャ〜、　カパッ、
グシャ、　カチャカチャ

主題とサブモチーフを考える



- 「片手」のデッサンでは、小さくなってしまって無駄な余白が目立ったり、腕が途中で消えていたりと、**消極的な構図**の作品が多かった。
- 「両手」「食」と進むごとに、紙の**4辺に対する意識**が強くなり、狙いをもって位置や角度を決めているのが伝わってくるようになった。
- **素描が得意でない生徒も、前向きに取り組み、意欲的な作品を描いた。**

講評会について

講評会の流れ

- 作品鑑賞
- 自分の作品についてワークシートに記入
- 良いと思う作品に付箋で投票
- 良いと思った作品についてワークシートに記入
- 自分の作品について発表

講評ワークシートの内容

やろうとしたこと、反省

よいと思った作品、理由

講評や発表を聞いてみて、あらためてよいと思った作品

付箋で投票している様子

付箋

課題内容に合わせて、
投票する観点を指定する

青は構成が良いもの
オレンジは食を感じるもの

Aさんによる作品についての発表
・やりたかったこと
・反省

Aさんの作品に投票した人は、
その理由を発表。

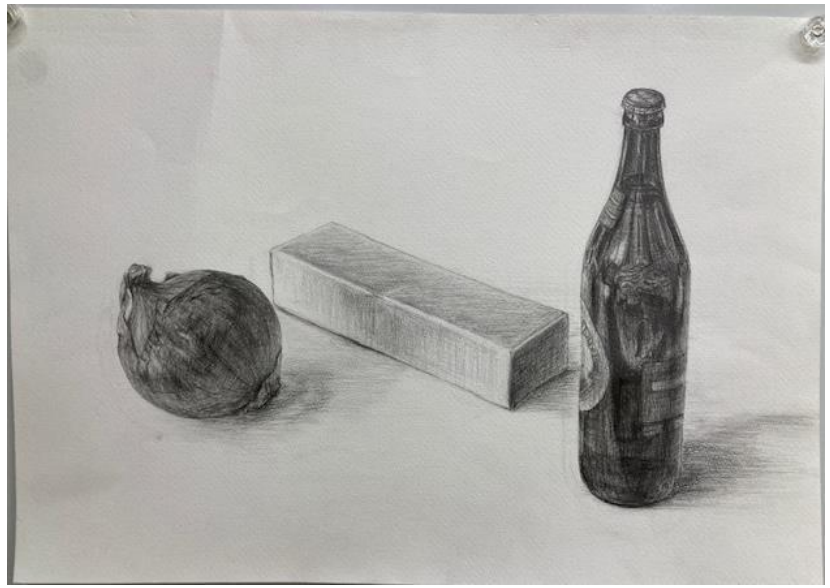
生徒の変容について

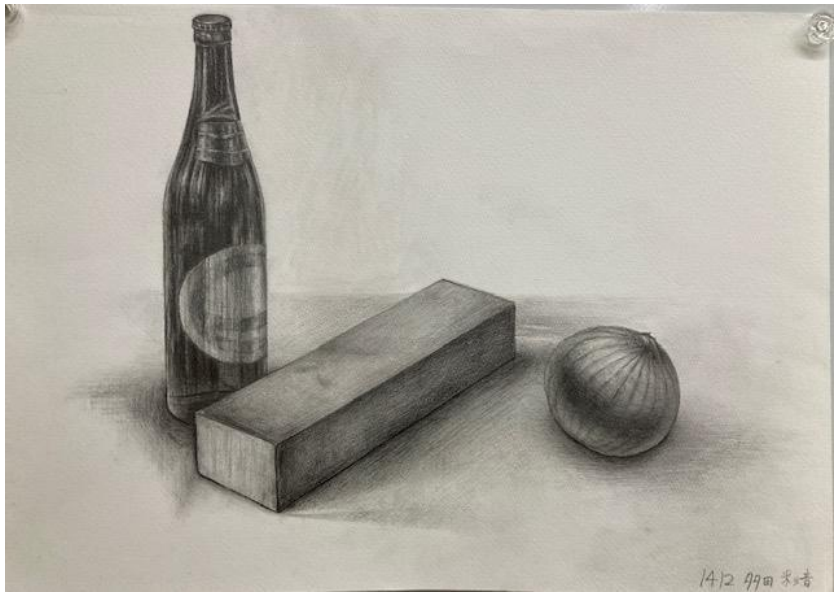
作品からの考察

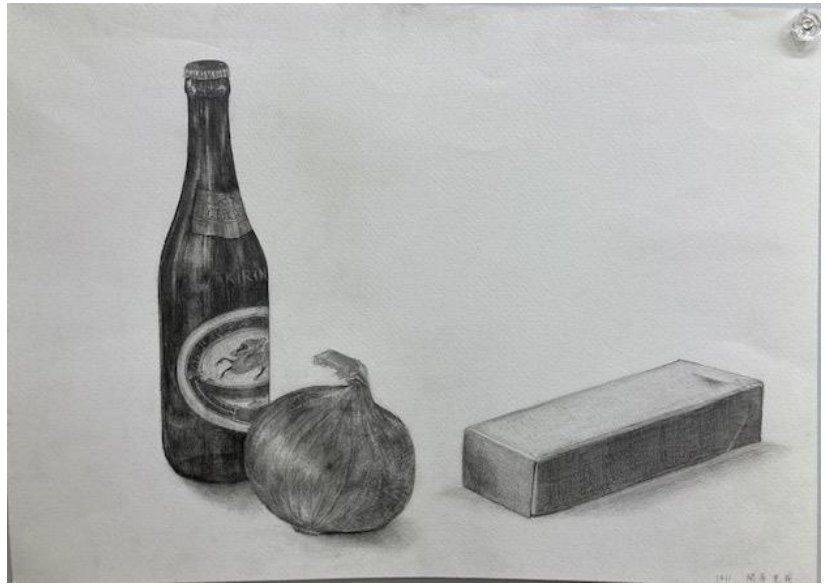
構成デッサンの次に2学期最終課題として
卓上静物デッサンを行った。

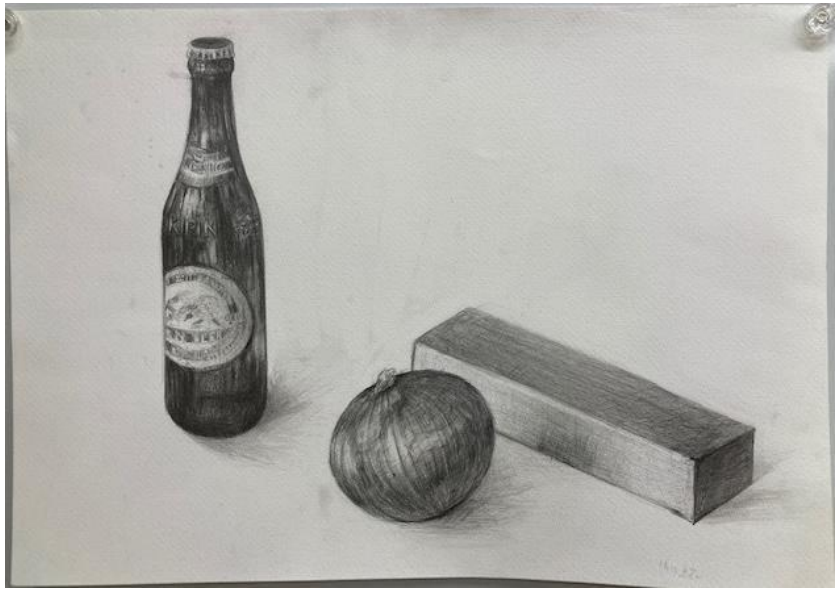
2年生11月　ビール小瓶
セメントレンガ
人参

1年生6月　ビール小瓶
紙箱
タマネギ

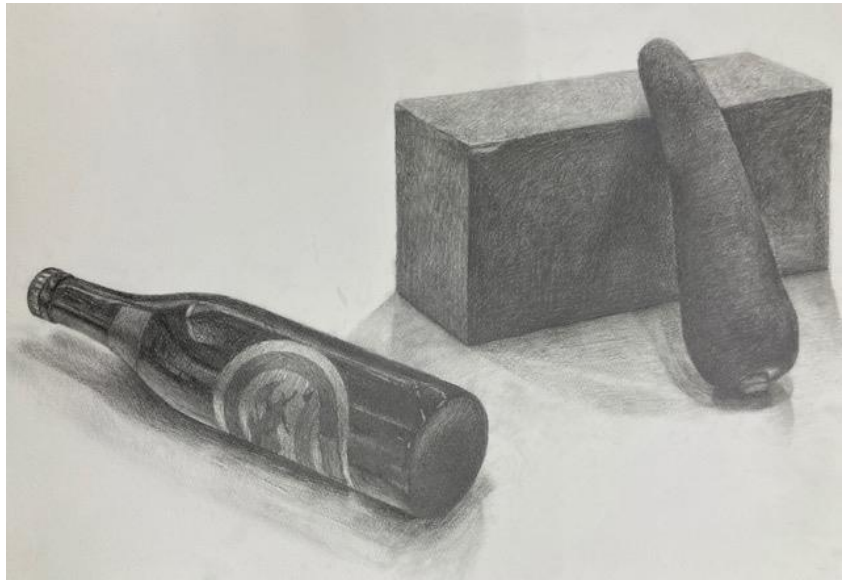


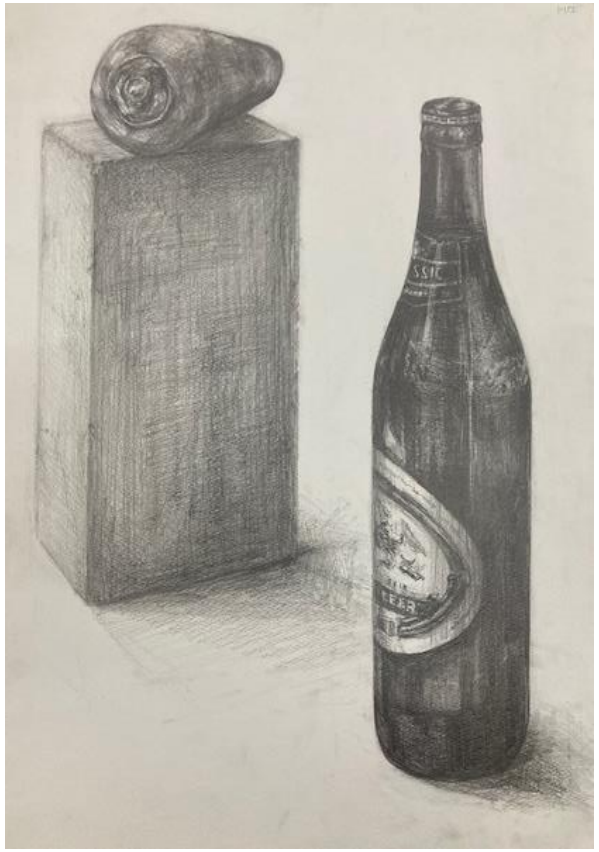


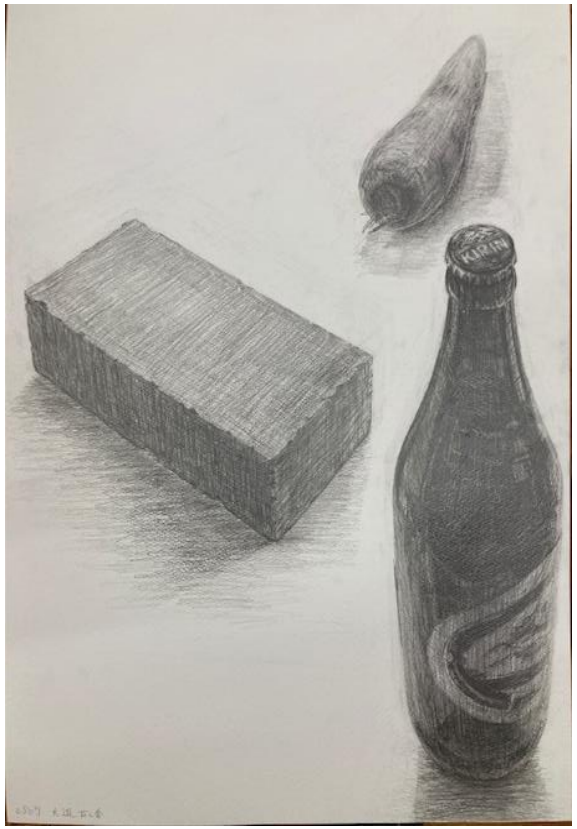




1年生6月の素描







2年生11月の素描

- 構成力が向上した
- チャレンジが多く見られるようになった
- 課題となると、条件をクリアする意識になりがちだが、素描に対しても作品として意識し、自分なりのテーマや主題と持って取り組むようになった。

専攻での生徒作品

Aさんの作品

Ａさんの作品

2年生４月

2年生９月

2年生１２月（制作中）

2年生８月

対角線の構成に奥行の意識が加わり、
抜けのある空間が生まれている。

Bさんの作品

2年生4月

2年生８月

2年生１２月
（制作中）

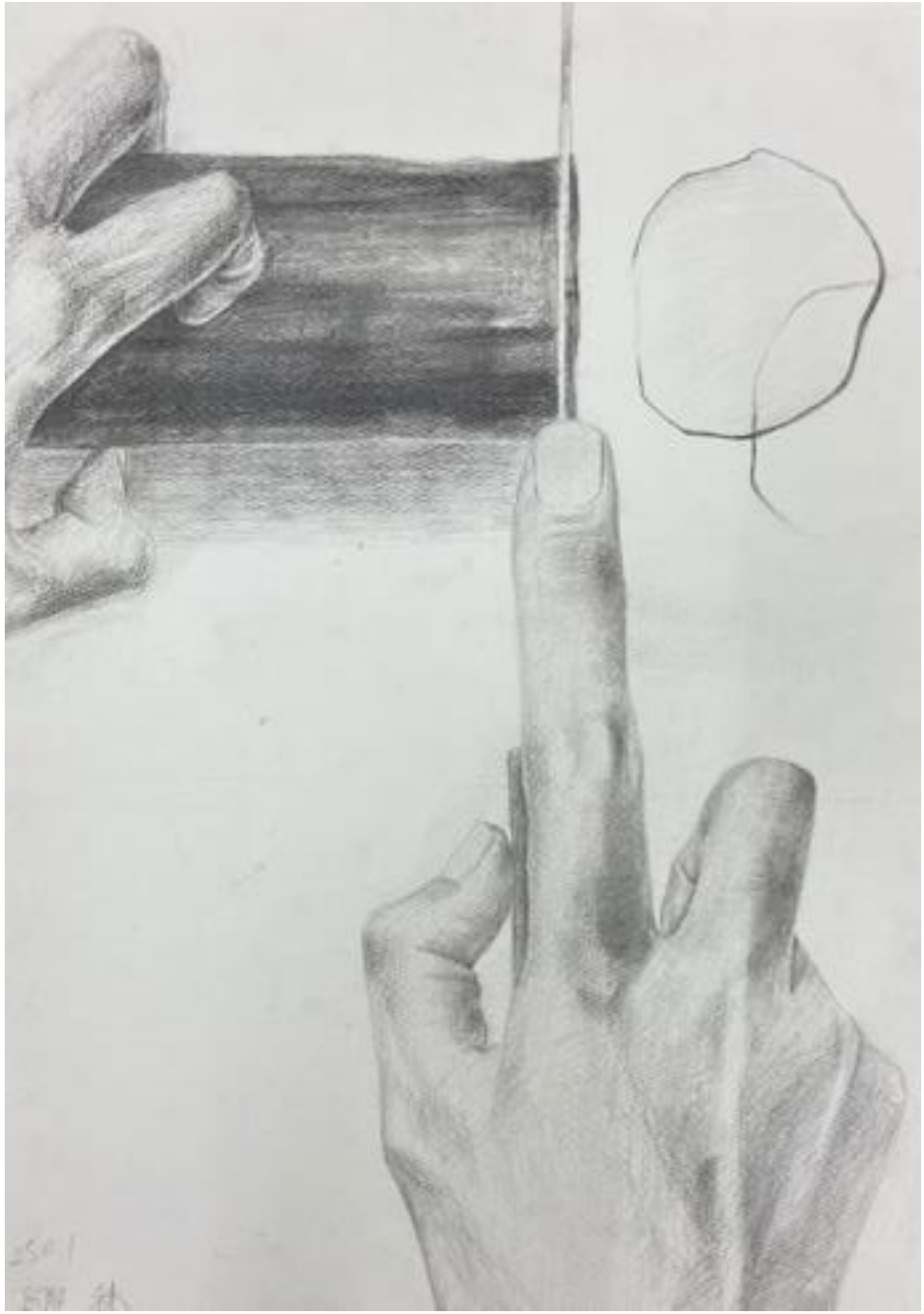
2年生１２月
（制作中）

Ｂさんの作品

写実について、自らの課題を分析して、テーマの設定や、表現の工夫などに成長が見られる

思考力、判断力、表現力等が
バランス良く身に付いている

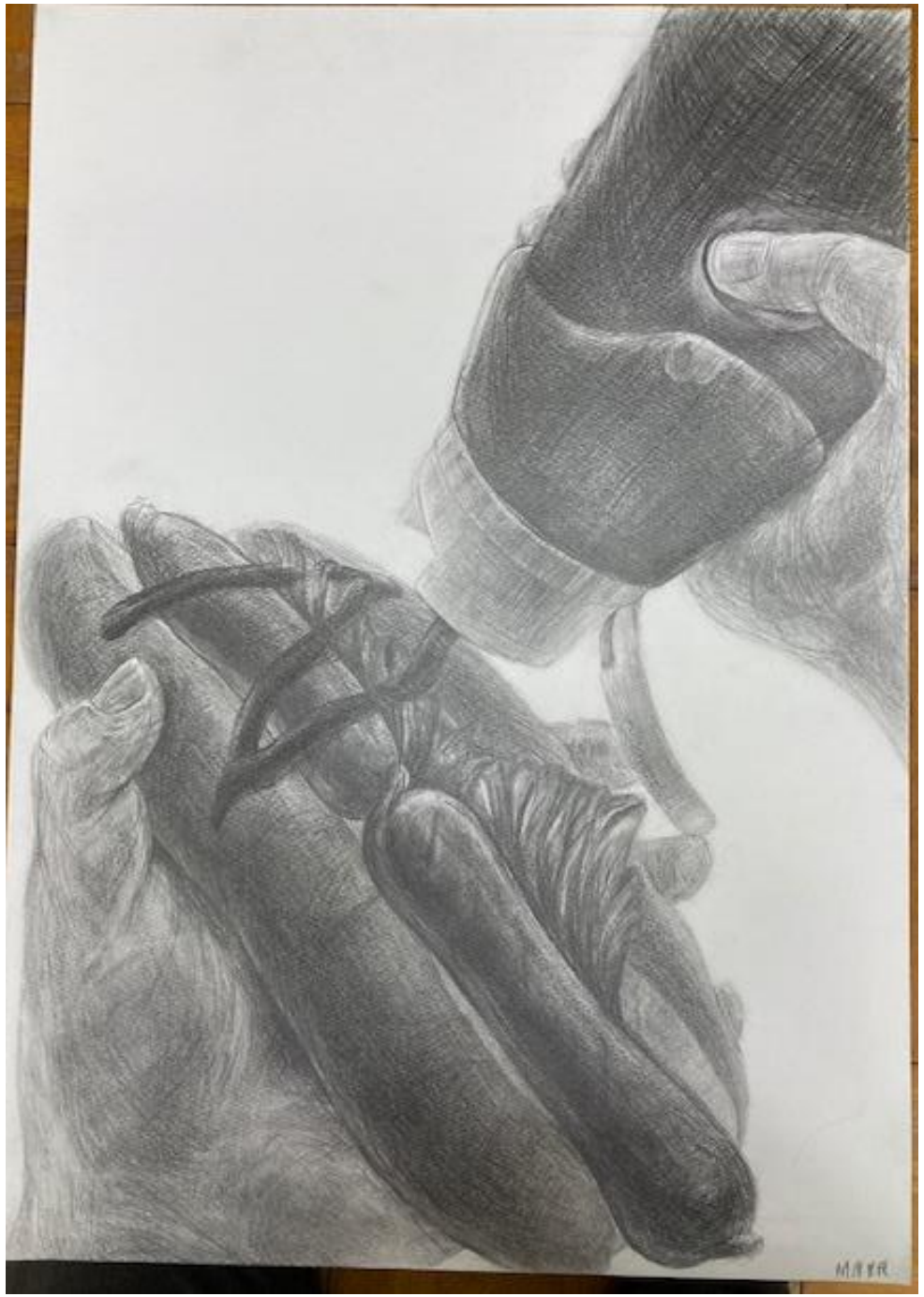
ワークシートからの考察



作品についてのコメント

切ったキュウリの配置と左手の切れ方が良い。キュウリから手へと自然に視線誘導される。

感じたことについての記述が具体的になった

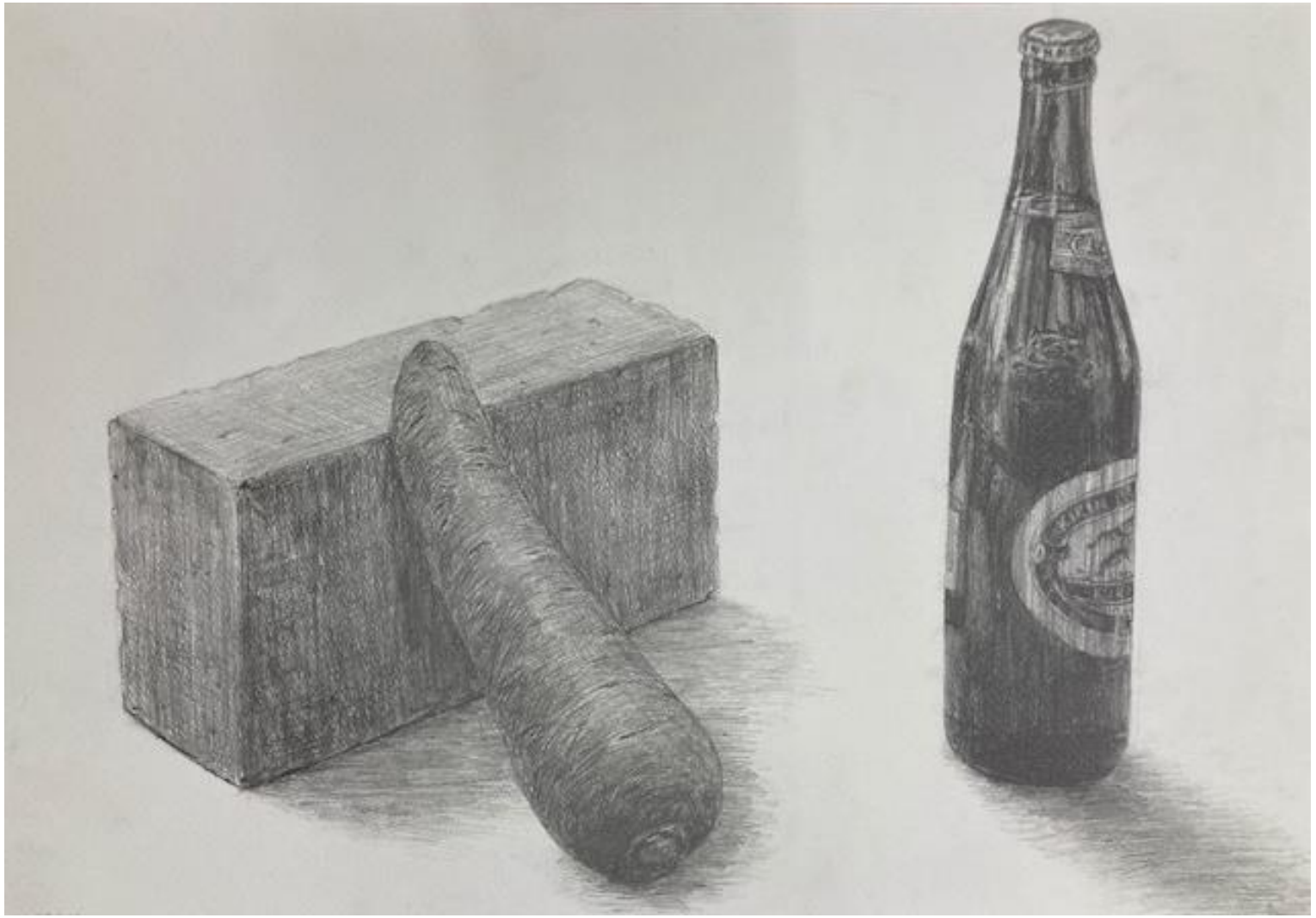


作品についてのコメント

温かみを感じる→色幅が豊富だから？

やわらかさが好き→離れてみたときに
手跡を感じさせない
的確さのせい？

表現や構成について分析する姿勢



反省
人参とレンガの色の差が少なかったので描き分けに苦戦した。瓶には、もう少し強いハイライトを入れた方がガラスの質感が出たかもしれない。構図に面白みがないので、もう少し視点を動かしてみるとか工夫したら良かった。

講評前から、作品をより良くするには、
どうしたらいいか考えるようになった。

ワークシート記入内容の変化

- 感じたことについての記述が**具体的**になった。
- 表現や構成について**分析する姿勢**が見られるようになった。
- **講評前から**、できてないところを見つけるだけでなく、より良くするには、**どうしたらいいか考える**ようになった。

作品に対して謙虚に良いところを探したり、素直に反省したりする姿勢が、具体的な反省や分析につながり、お互いに影響を与え、良い制作環境の一因となっていると考えられる。

まとめ

美術作品の鑑賞や生徒作品を相互に鑑賞することを通して、作品の心情や表現の意図と工夫について感じ取ったり考えたりしたことを**伝え合う場面**を意識して指導に生かしてきた。

その結果、表現の活動で、
テーマの設定や構図の工夫などについて、生徒が意識して考えていくようになってきたと考える。これは、絵画や彫刻などのそれぞれの科目の授業でも感じ取られた。

様々な科目の**課題を関連付け**て指導したり、生徒が相互に作品を鑑賞し合い意見を交わす機会を教師が意識的に設定したりして、**表現と鑑賞の指導を関連**させることで、それぞれの科目の資質・能力の育成につながったのではないだろうか。

教員同士が題材で何を学ばせるかを明確にしたことで、
評価の観点が明確になり、
その時間の目標を生徒が意識できるようになった。
その結果、生徒が客観的に自分の制作を振り返って自主的に作品制作への取組を考えるなどの場面が見られ、教師も生徒の様子から指導の方法を修正したりする場面があった。
生徒の学習改善や教師の指導改善につながるようになってきたと思われる。

今後も、表現と鑑賞を連動させること、生徒の作品の変化と指導の改善について研究を続けていきたい。
また、ひとつひとつの作品を評価するだけでなく、1年間の作品の流れや変化を生徒自身も把握できる機会を設け，年間通しての変化を評価対象にしていくということも検討していきたい。

生徒たちは3年生になり
受験対策も重要となってくる。
時間対応や課題条件をクリアするということだけでなく、
1、2年生の間に培った、制作姿勢を土台として、
一つ一つの作品と向かいあっていくことが、
受験の様々なストレスにくじけず、
進路実現に繋がっていくと考えている。

ご清聴ありがとうございました。